

平成30年度自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	社会の中でたくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を図る
---------------------------	--

今年度の重点目標	1 【主体的な学びの推進】課題を認識し、解決の方策を考え、行動する力を育成する 2 【社会性の育成】人と関わる力、自分の感情・行動をコントロールする力を育成する 3 【地域資源の活用】地域に貢献する力を育成する
-----------------	---

年度当初					評価結果()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学びの質的改善	学びに向かう意欲・意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○一般常識小テストにおいて、毎回「学びのルール」から問題を出題している。 ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒は延べ29名。 ○6月と9月に家庭学習時間調査を実施し、家庭学習状況を把握した。担任面談での活用を図ったが、活用効果が期待できる分析まで至っていない。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が64% ○タブレットを活用した授業を行った教員は33%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのルール」を覚えている生徒が80%以上。 ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒が延べ30人以下。(平成31年度は20名以下) ○生徒の家庭学習実態を把握し、学習指導の改善に活かし、自らの授業への取り組み姿勢に肯定的な回答をする生徒が60%以上。(平成31年度は75%) ○本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が70%以上(H31年度は80%) ○タブレットを活用した授業を実施している教員が40%以上。(平成31年度は50%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのルール」を活用した指導を継続して行う。定着の把握を行うため学校評価アンケートに質問項目を追記し、今後の指導に活用する。 ○年度当初に教職員にカード指導の徹底を図るとともに、10月にも職員研修を実施し、職員間で差のない適切なカード指導の運用に努める。 ○授業の工夫や課題の出題など、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。 ○進路LHR、面接週間、保護者懇談等において、教育企画部、キャリア形成部の連携して、生徒の進路意識と学力の向上に資する情報提供、指導・助言を行う。 ○インターネット環境の整備を行うとともに、タブレット端末を活用した授業指導を研究し、電子黒板・デジタル教科書及びタブレットを活用した授業の研修会を開催する。 			
	協同学習の実践(試行錯誤)	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回の授業公開週間に協同学習に関する授業研究会をそれぞれ実施したこともあり、71%の教員が「授業の質的改善に取り組んでいる」と回答した。 ○公開授業週間での参観シートの利用枚数は延べ13枚にとどまった。 ○「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」において、協同的な学びの場を多く取り入れ、コーディネーターとの連携を図りつつ、地域資源を活用した学びに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の質的改善に取り組んでいると回答する教員が65%以上。(平成31年度は100%) ○公開授業週間の参観シートの利用枚数が延べ50枚以上。 ○「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の授業において生徒が協同して学ぶことができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協同学習の推進(H30:試行錯誤期)に向け注力する授業科目の決定と、一人あたり年間2回の授業プランシートを活用した授業公開を実施することにより、授業研究を活性化し、授業の質的改善へつなげる。 ○「産業社会と人間」等における教育内容・評価について、有識者の力も借りながら工夫・改善していく。 			
2 社会の中で生き抜く力の育成	人と関わる力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション力や他者と協同・協調する力が不十分である。 ○他者を傷つける、いじめ等の行為により指導を受けた生徒は延べ15人。 ○1年次生が8月に実施した人間力アップ合宿後の対人関係における指導件数は1件のみ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が70%以上。(平成31年度は80%以上) ○学校生活や授業を通して、適切な自己開示のもとに多様な個性を認め合い、同学年・他学年の生徒とコミュニケーションを取り、他者と協同・協調することができるようになる。 ○他者を傷つける、いじめ、SNSへの書き込み、行き過ぎた行為により指導を受けた生徒が延べ10人以下。(平成31年度は延べ5人以下) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の特性に合ったWYSH教育の内容を引き続き検討する。 ○授業や特別活動を通して生徒同士が適切に自己開示し、協同・協調する場面を多く設定する。 ○各学期の始業式・終業式後に全校集会・学年集会を開催し、学校生活の諸課題に対する意識の高揚を図る。 ○いじめは絶対に許さないと指導を粘り強く行うとともに、いじめアンケートやこころのメッセージ及び生徒の普段の様子を把握し、組織的かつ迅速な対応を行う。 ○他者との関わり大切さやその喜びを学べるよう人間力アップ合宿などの教育活動を充実させる。 			
	感情・行動をコントロールする力の増大	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感の低い生徒が多い。 ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が平成29年度に4件。 ○個々の生徒の特性、課題を把握し、ケース会議等の開催や、教育相談員・SSW等と連携することで、個に応じた支援を行っている。 ○朝食を全く摂らない生徒が約12%。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をする生徒が45%以上。(平成31年度は60%) ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が3件以下。(平成31年度は2件以下) ○生徒は場に応じて感情や行動を自制でき、安心して学校生活を送っている。 ○朝食を全く摂らない生徒が10%未満。 ○生徒の学校満足度が75%以上。(平成31年度は80%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の地域貢献活動を積極的に報道提供し、生徒の自尊感情や達成感を醸成する。 ○全教職員が指導方針を統一した上で、一人ひとりを大切に指導を行う。 ○生徒会執行部や学校祭実行委員会において生徒が主体的に運営するように指導する。 ○生徒の特性に合ったWYSH教育の内容を引き続き検討する。 ○ストレスマネジメント(全学年対象)と実施する。 ○「食事についてのアンケート」を実施し、結果を周知し、啓発を行う。対象生徒への個別指導を行う。 			
3 地域と連携した教育の推進	地域に貢献する意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒は69% ○H29に「職場体験学習」を実施した26事業所の内、日野郡内では22事業所(85%)であった。 ○地域の人材・資源を活用した授業や町内ボランティア活動等を行い、地域貢献活動の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答する生徒が72%以上(H31は75%) ○日野郡内の事業所での「職場体験学習」の実施率が88%(H31も88%) ○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 ○生徒が部活動、生徒会活動、学校行事等で、地域貢献を提案できるようになる。 ○校内および地域環境への意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターと連携して地域の事業所と関わる教育活動内容を充実させる。 ○1年次の「産業社会と人間」との接続を見据えた系統的な教育活動を計画する。 ○生徒会を中心に小中高合同ボランティアを清掃や福祉餅つき等において、地域貢献をより主体的に考案する機会を用意する。 ○ゴミ出さないDay、ゴミ減量チャレンジを実施する。 			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]